

青牛式トレードマスター講座

合理的なモメンタムを捉えるエントリーの考え方

一言でエントリーとは言っても、当然、環境条件によって「それが持つ意味」は全く変わってくるわけで、そこから発生するモメンタムに「合理的な理由」を導き出すことができればエントリーする価値があるということ。

もっと強めに表現するのならば、

「合理的なモメンタムの見極めができるのならば、機会を捉えることを生業とするトレーダーとして、エントリーしなければならない。」

とも表現することができます。

そして、一見して非効率にすら感じる買いのみの戦略を採用しているにも関わらず、高精度な環境認識の技術があれば上位足の環境条件に左右されずに、その合理的なモメンタムを捉えることが可能な世界が存在します。

青牛式トレードマスター講座

このコンテンツでは、鉄板パターンを一定の確率で確実に捉えることができるようになった先に存在する様々なエントリー戦略について解説していきます。

しかし、現在の自身の状況を加味した上で、このコンテンツが悪影響を及ぼさないと判断ができる方のみ読み進めるようにしてください。

まず、エントリー戦略は、私の中で大別して4つに分けています。

- ①鉄板パターンでストップを絞り込んでロットを入れるエントリー
- ②鉄板パターンのセットアップで機会損失回避を優先したエントリー
- ③上位足が買いに優位な環境下で機会損失回避を優先したエントリー
- ④上位足が買いに不利な環境下で上昇のモメンタムを狙ったエントリー

青牛式トレードマスター講座

これまでにフォームトレーニングを通して取り組んできたことは、ここでいう①に該当し、場合によっては結果的に②も採用していたというところでしょう。

まず何よりも大切なことは、①と②のチャンスを厳密な根拠を導き出した中で確実にものにできることであって、それがままならない状態でこのコンテンツで解説する③、④に絶対に手を出してはいけません。

なぜならフォームが崩れるから。

この講座では、一貫したフォームの重要性について幾度となく触れてきましたし、むしろそれがコアコンテンツとすら思っていますが、メンバーの現状を客観的に評価するのならば①、②を完璧に捉えることができるメンバーは、ほとんどいないと言ってもいい状況かもしれません。

正直、このコンテンツを公開するべきか非常に悩みましたが、メンバーの将来を見据えた中で必ず必要になってくる内容だと思い公開に踏み切りました。

青牛式トレードマスター講座

では、それぞれのエントリーパターンについて解説していきます。

①鉄板パターンでストップを絞り込んでロットを入れるエントリー

言わずもがな、これこそが「スキャルのストップ幅でスイング規模の波を捉える」ということ。

【Macro Set Up】→ テクニカルシグナル・ハンマー確認

【Middle Set Up】→ テクニカルシグナル・ハンマー確認

【Micro Set Up】→ テクニカルシグナル・ハンマー確認

というように段階的にセットアップの確度を上げていき、最終的に M 1 でプライスアクションを見極めながらエントリーする。

つまり、上位足から順を追ってセットアップを固めていくため、下位足へいくにしたがって動き出すタイミングが近くなっていきますし、**「エントリーポイントとストップ幅は必然的に狭くなる」**ということです。

青牛式トレードマスター講座

なので、「ここで伸びなかったら損切り」を繰り返しながら（当然、それが少ないに越したことはありません）、意図的にエントリーした瞬間から含み益になるように戦略的に立ち回っていくのがこのスタイルになります。

②鉄板パターンのセットアップで機会損失回避を優先したエントリー

このエントリーの詳細については、コンテンツ「トレンド転換と陰陽転化の立ち回り」で解説していますので、そちらを参照してください。

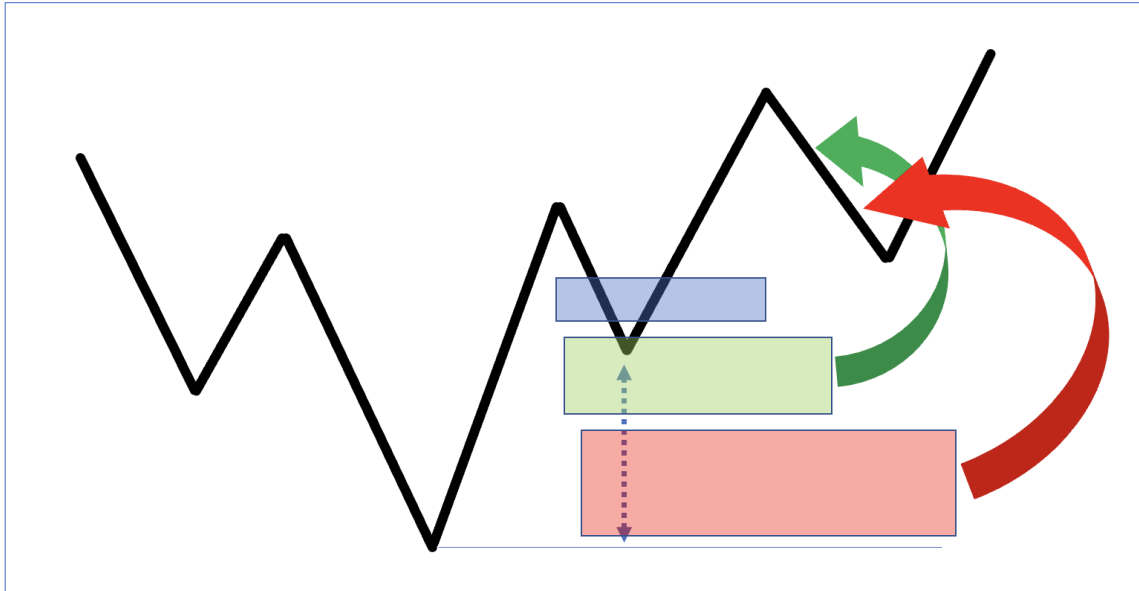
セットアップに確度があることに比例して、「このチャンスを逃したくない」という気持ちと全面的に向き合った経験は誰にでもあるでしょう。

そこで焦ってエントリーしてしまうと、無駄な損切りをした後に思惑の方向に巡行したり、慌てて飛び乗ったはいいものの結果的にそのセットアップが成立しなかったという状況になりがちです。

なので、一つの考え方として、**まずは分割エントリーで入るゾーンを決めてそこで入っていく**。落ち切らず本玉を入れられなかったら、折り返しの第3波

青牛式トレードマスター講座

かミクロでの押し目買いが来るのを待ち、「そこまで落ちてきたら」本玉を入れるという方法が時間対効果の面で最も合理的でしょう。

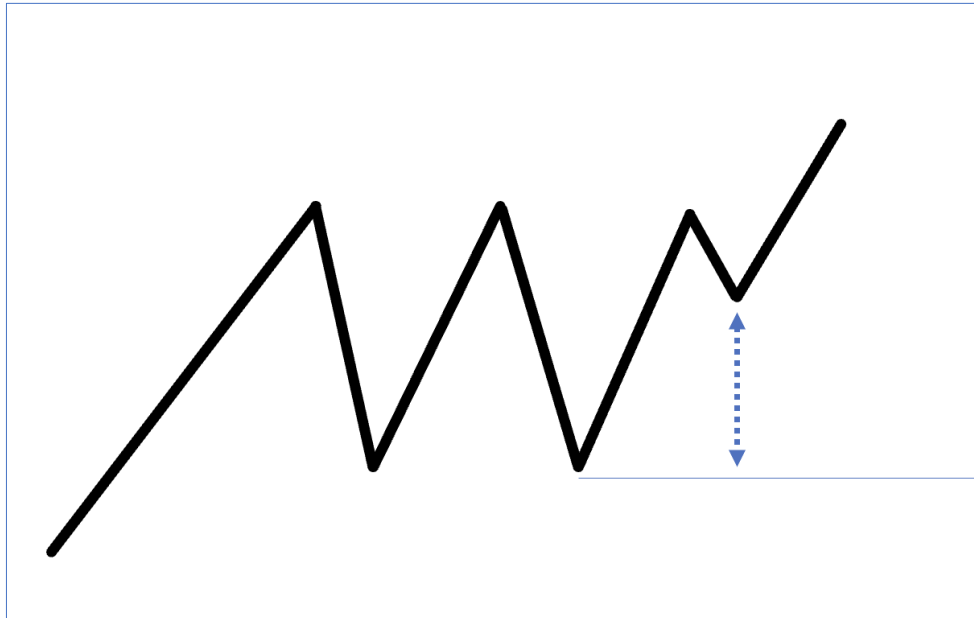


買い下がりたかったゾーンで打つべきだった玉を、さらに上昇してからの押し目で打っていく。

しかし、そのチャンスが来なければ「仕方ない」と割り切る気持ちを持つことも大切です。

青牛式トレードマスター講座

③上位足が買いに優位な環境下で機会損失回避を優先したエントリー



想定した安値まで落ちてくる様子がなく上昇する可能性が高い場面

最悪、直近安値まで落ちてきても耐えられるポジションサイズに調整し、機会損失回避を最優先とする戦略ですが、個人的には「ストップを絞り込み、大きいロットを入れられるポイントでのエントリー」が信条であるため、積極的にはオススメしません。

一律な表現として、H4 以上で UTRD の状況を「上位足が買いに優位な環境」とします。

青牛式トレードマスター講座

この場合であっても、ストップ刈りは基本的に起こると考えていますが、何よりも買い圧力が働いている環境のため、一旦上昇し始めると深い押し目などを形成せずに伸びていってしまいます。

なので、エントリーする時間帯や通貨の限界運動量等を考慮し、前回安値までの下落にも耐えられるポジションサイズに調整することによって、機会損失をカバーしたエントリーを許容するという考え方です。

④上位足が買いに不利な環境下で上昇のモメンタムを狙ったエントリー

上位足が DTRD の状況であっても、確実に買いのチャンスは存在します。

なぜなら、「**下げるためには上がらなければならない**」という原理原則があるからで、その上昇するモメンタムの発生タイミングを厳密に見極めることができれば、例え大極的には下げ相場であったとしても合理的な買いのモメンタムを抜き取ることができるのです。

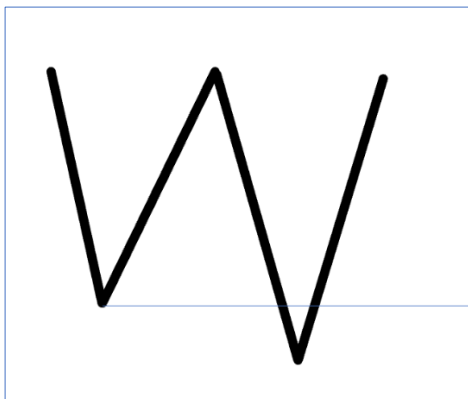
青牛式トレードマスター講座

ただし、この④の戦略は、これまでのエントリー戦略とは対極的であることは十分理解しておくこと。

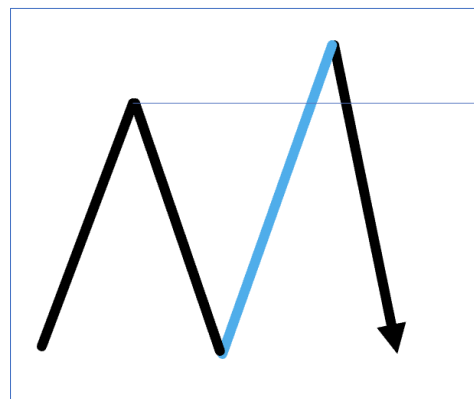
なぜなら、上位足は買い手に取っては不利となる下げ相場であるため、一瞬の油断が命取りになるからです。

一つの例として、買い戦略で考えた時に直近の安値には、ほぼほぼの確率で試しに来るわけですが（いわゆる 2 番底）、これは下落の場合も同様に直近高値を試す、また、高値付近のストップを刈りに来るということと同義と捉えています。

ゆえに、直近高値を試す上昇のモメンタムを狙う機会は十分にあります。



2 番底形成の下落

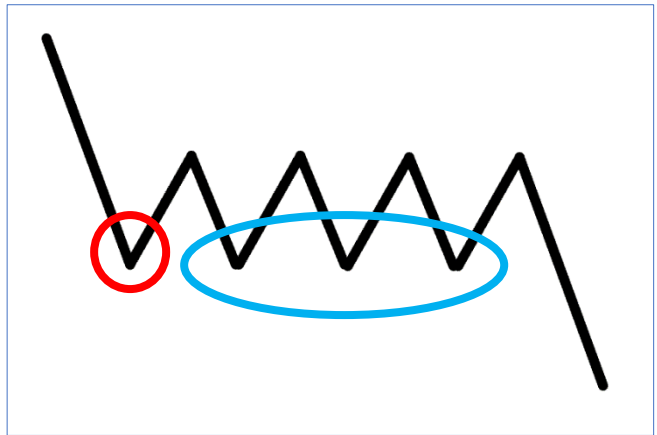
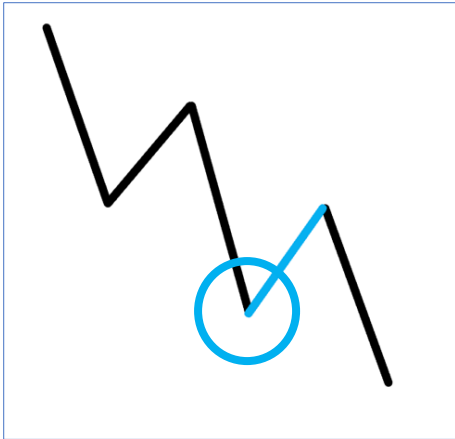


2 番天井形成の上昇

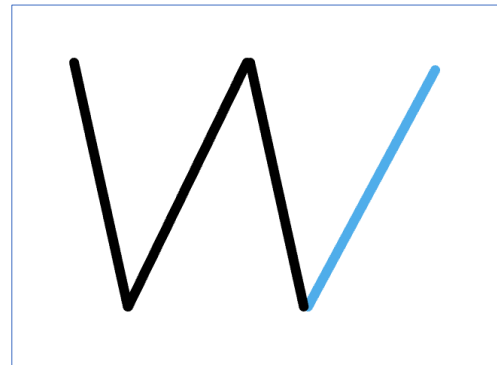
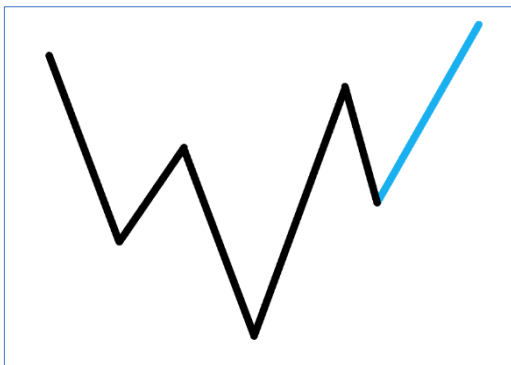
青牛式トレードマスター講座

大局が DTRD であっても買いを狙える場面

【Macro Set Up】 ・ 【Middle Set Up】



【Micro Set Up】



※注意※

この④の戦略では、でエントリーしてはいけません。あくまで1回目の安値が確定してから入ること。は陰陽転化です。

青牛式トレードマスター講座

常に変わり続ける変動相場と向き合う中で、私達トレーダーに与えられた選択肢は実に多様ではあるものの驚くほど限定的です。

つまり、どんな手法でも勝てるということは、「**その手法が機能する秩序はどの手法にも平等に分け与えられている**」ということを意味しています。

そして、裁量トレーダーには、その秩序の発生から閉じるまでの「場の息遣いを見極める権利」を相場から与えられているとともに、これこそが裁量トレード最大の優位性なのです。

「秩序とは合理的なモメンタムである」ことを骨の髄まで理解し、実戦経験を積む中で自分だけのエントリーパターンを見出していきましょう。

あなただけの、オーダーメイドを作るのです。

あをうし